

大学・短大等現役進学率は 49.4%で過去最高に！

—平成19年度“大学・短大全入”は先送り必至！—

旺文社教育情報センター 平成18年8月

平成18年度の大学・短大等への現役進学率は過去最高の49.4%となり、特に女子は50%を超えることが、このほど発表された文部科学省の『平成18年度学校基本調査速報』でわかった。また、今回の大学・短大への入学状況から、当初19年度と見られていた“全入”の到来は先送りになることが必至となった。ここでは、18年度の大学・短大に関わる諸データを分析・紹介する。

■「学校基本調査」とは？

「学校基本調査」は、学校の教育行政に必要な基本的事項を明らかにするために、統計法(国の統計に関する基本法)に基づいて実施される調査。例年、文部科学省が幼稚園・小・中・高校・中等教育学校・専修学校・大学・短大など、すべての学校を対象に、学校数・在学・卒業生数や、入学・卒業後の状況などを調査する。

調査結果(5月1日現在。ただし、卒業後の状況は前年度間)は例年、「速報」が8月、正式な「報告書」が12月にそれぞれ公表される。

*文中の「高認」は、「高等学校卒業程度認定試験合格者」のこと。

■大学・短大への受験状況

＜「現役大学・短大受験生数」は67.3万人＞

18年3月の高校卒業生数(中等教育学校後期課程586人を含む)は117万2千人で、17年度より3万1千人(2.6%)減少した。

このうち、大学・短大への受験生数(実数：ここでは、「基本調査」の志願者数を受験生数としている。以下、同)は67万3千人で、17年度よりわずか300人(0.1%)の減少にとどまった。これは18歳人口の減少(前年度より4万人<2.9%>減)と高校卒業生数の減少があったものの、従来の短大受験生層や専修学校(専門課程)受験層の一部が大学受験へシフトしたことなどによる大学現役志願率の大幅アップが大きな要因とみられる(図①・表1参照)。

<「現役の大学受験生数」は58万人台に増加>

現役受験生を大学・短大別にみると、大学では17年度より8千人(1.4%)増の58万6千人となった。これは、大学現役志願率のアップ(前年度比1.9ポイント増)の結果とみられる。短大の現役受験生数は、8千人(8.8%)減の8万6千人で、9万人台を割った。なお、浪人の大学受験生数は、17年度より1万7千人(14.0%)の大幅減で、10万4千人だった。

<現役志願率は57.4%で、17年度より大幅アップ>

大学・短大への現役志願率(18年3月の高校卒業者に占める現役受験者数の割合)は57.4%で、17年度より1.5ポイントアップした(図①・表2参照)。

大学・短大別では、大学は17年度より1.9ポイント増の50.0%、短大は0.5ポイント低下の7.4%だった。

<浪人を含む大学・短大受験生数は78万人>

過年度卒業者(浪人:10万7千人)を加えた大学・短大受験生数(実数:高認等を除く)は78万人で、17年度より1万8千人(2.3%)減少した(表2参照)。

大学・短大別にみると、大学では69万1千人(前年度比1.3%減)と、17年度に引き続き減少している。短大は17年度に比べて9千人(9.2%)減少の8万9千人となり、17年度の10万人割れからさらに減少し、9万人台を割った。(図①参照)。

■大学・短大への入学状況

<大学・短大への入学者数は70万人台を割る>

大学・短大への入学状況をみると、入学者数(高認等含む)は69万4千人で、平成元年以来18年振りに60万人台となった(表2参照)。

大学・短大別では、大学が60万3千人で、17年度より1千人(0.1%)のわずかな減少。短大は17年度より9千人(8.7%)減の9万1千人であった。これは、短大受験生の大幅な減少や18年度に開設した国公立11大学のうち、6大学が短大の募集停止を伴っていたこと、短大が18校募集停止したことが大きな要因と見られる。

<大学への不入学者数は1万人減少>

不合格者も含めた大学・短大の不入学者数(高認等を除く、受験者数-入学者数)は、17年度より1万1千人減り、10万3千人であった(表2参照)。

このうち、大学の不入学者数は17年度より1万人少ない10万2千人、短大は800人少ない100人であった。

大学の不入学者が大幅に減少したのは、受験生数の減少と大学新設、学部増設による入学定員の増加に加えて、浪人することによる経済的負担を敬遠した結果とみられる。

<大学入学率は85.1%>

大学・短大受験生数(高認等を除き、浪人含む)に対する入学者数の割合(入学率)は86.8%で、17年度より1.1ポイント上昇した。

入学率を大学・短大別にみると、大学では85.1%で、17年度より1.2ポイント上昇している。また、短大は99.9%で17年度より0.8ポイント上昇した。

■現役の大学・短大進学状況

＜現役進学率は過去最高の49.4%＞

高校新卒者(中等教育学校含む)の進路別調査では、大学・短大等(大学学部、短大本科、大学・短大の通信教育部等)への進学者数は57万9千人(前年度より1万人増)で、17年度に引き続き増加した。

大学・短大等への現役進学率は、16年度から3年連続して上昇し、18年度は過去最高の49.4%(前年度比2.1ポイント増)に達した(表1参照)。

＜女子現役進学率は過去最高で50.6%＞

大学・短大等への現役進学率を男女別にみると、男子は16年度以降上昇し、18年度は48.1%と過去最高となった。女子は12年度から4年連続のダウンが続いたが、16年度から上昇に転じ、18年度は50.6%とこちらも過去最高となった。(表1参照)。

＜現役進学率トップは京都の61.3%＞

高校新卒者の大学・短大等への現役進学率は、全都道府県で増加した。アップ率が顕著だったのは、3.5ポイント=新潟、3.1ポイント=福岡、3.0ポイント=埼玉・大阪・鳥取などで、18都府県が2.0ポイント以上アップした。この結果、全国平均の進学率も17年度より2.0ポイント上昇して49.3%となった。(表3参照)。

■浪人含む大学・短大進学率は52.3%

＜男子の進学率は53.6%と過去最高＞

浪人や高認等も含めた大学・短大への進学率とは、進学適齢期の18歳人口132万6千人(ここでの18歳人口は、3年前の中学校卒業生数及び中等教育学校の前期課程修了者数を適用)に対する、大学・短大の入学者数69万4千人の割合である。

この進学率は4年連続で増加し、52.3%で過去最高。大学に限ってみると、入学者数は17年度より1千人減ったものの18歳人口の減少幅が大きく(4万人<2.9ポイント>減)進学率は45.5%(前年度より1.3ポイント上昇)で過去最高を記録。一方、短大の進学率は0.5ポイント低下の6.8%であった。

男女別は、男子が53.6%(前年度より0.5ポイント増)、女子は51.0%(同1.2ポイント増)。(図①参照)。

■大学数・短大数と学生数

＜大学は18校増、短大は19校減＞

大学数(5月1日現在。大学院大学を含む。以下、同)は、国立87校(増減無し)・公立89校(札幌市大、名寄市大および大学院大学1校の合計3校増)・私立568校(札幌大谷大、了徳寺大など大学8校および大学院大学7校の合計15校増)の計744校で、17年度より18校増え21年連続での増加。短大数は、国立8校(2校減)・公立40校(2校減)・私立421校(15校減)の計469校(19校減)であった。

*本調査では、学生在籍中は学生募集停止の学校もカウントする。

＜女子の学生数は過去最高を記録＞

大学（大学院を含む）の学生数は17年度より6千人減の285万9千人。このうち女子は17年度より3千人増え、112万7千人で過去最高。その占める割合も39.4%（前年度比0.1ポイント上昇）で過去最高。

なお、学部の学生数は250万5千人で、17年度より3千人減少した。一方、大学院の学生数は17年度より7千人増の26万1千人で過去最高となった。

短大の学生数は、17年度より1万7千人（7.8ポイント）減の20万2千人だった。（表4参照）。

■新規高卒者の進路状況

今春高校を卒業した117万2千人の進路先は、大学・短大等49.4%、専門学校（専修学校の専門課程）18.2%（同0.8ポイント減）、就職17.8%（同0.6ポイント増）、専修・各種学校6.7%（同0.7ポイント減）。「その他」のうち、進学も就職もしない者は5.7%（6.6万人）となっている（図②参照）。

進路別割合の推移は、大学の増加に対し、短大の減少が目立つ。また専門学校も減少傾向を示している。これは従来の短大層や一部の専門学校層からの流入があるとみられる。一方就職者は、16年度から上昇に転じており経済の好転が反映された結果といえよう。（図③参照）

■“全入”は21年度以降か！？

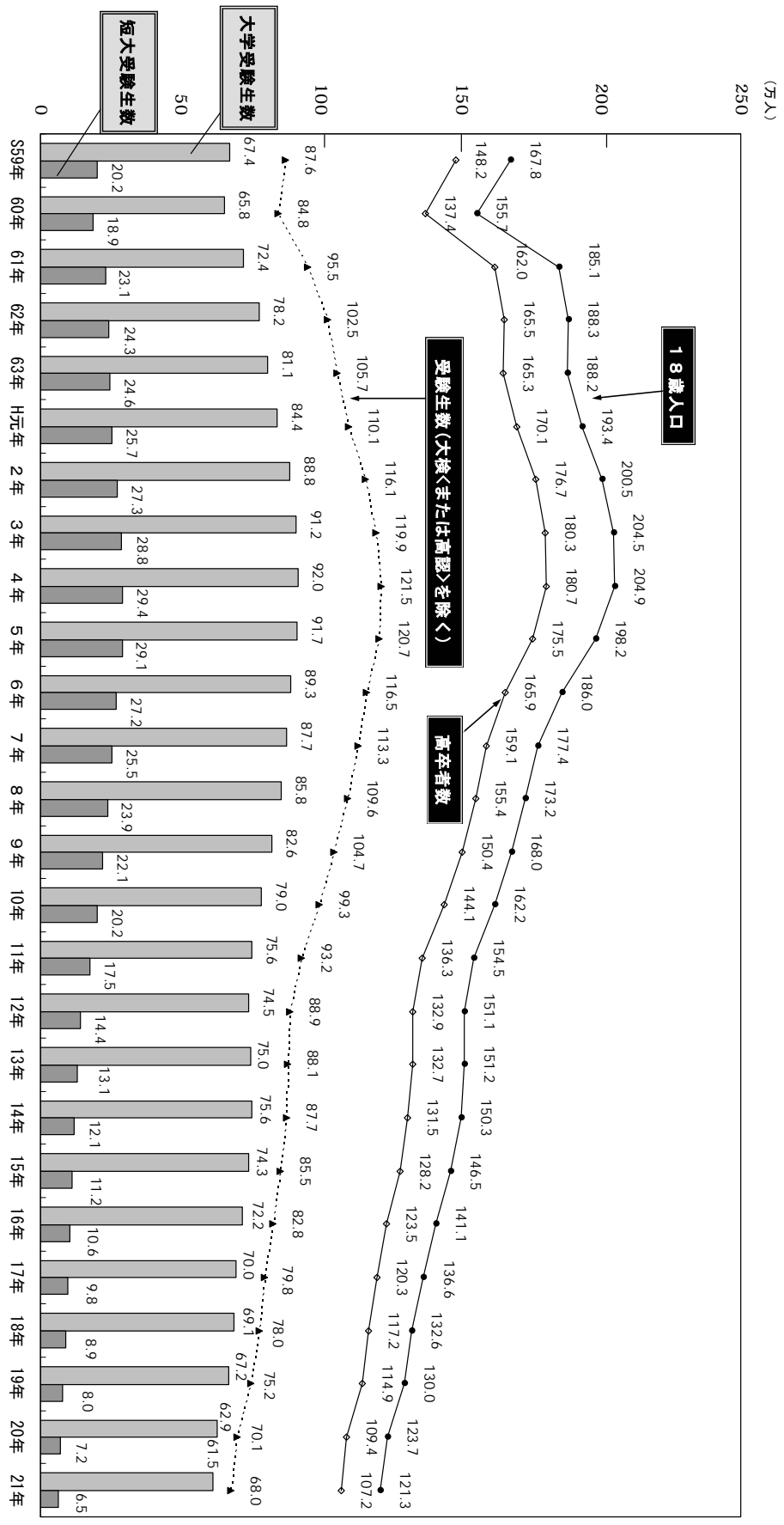
17年1月、中央教育審議会の大学分科会が、“19年度大学・短大全員入学”の予測（収容力100%；入学者数＜高認等を含む＞÷受験生数）を提示した。

今回（18年度）の『学校基本調査速報』の実績をみると、収容力は88.97%となり、試算（95.11%）を大幅に下回り、“全入”到来は先送りが必至となった。

しかし、私立大学で222校（全校数の40.4%）、短大で193校（全校数の51.7%）の定員割れ（18年度）が出ている現状では、中堅クラス以下の大学・短大の大部分が“全入”状態に入っているのが実情といえよう。

以下、次ページより参考図表（図～、表1～4）掲載。

18歳人口・高卒者数&大学・短大受験生数の推移 (図①)



進学率 (%) (含む浪人)	35.6	37.6	34.7	36.1	36.7	36.3	36.3	37.7	38.9	40.9	43.3	45.2	46.2	47.3	48.2	49.1	49.1	48.6	48.6	49.0	49.9	51.5	52.3	52.9	55.3	56.1
現役志願率 (%)	44.6	45.3	45.6	47.1	47.9	48.5	49.2	50.2	51.0	52.4	53.4	54.2	54.4	54.6	55.0	55.5	55.6	55.9	56.1	55.7	55.6	55.9	57.4	58.0	58.0	58.0

(平成18年以前は実数、19年以降は旺文社による推定値。18歳人口は、3年前の中学校卒業生数と中等教育学校前期課程修了者数の合計。受験生数は、大学入学資格検定(18年度から高等学校卒業程度認定試験)合格者を除く。)

●高校卒業者(現役)における進学状況の推移 (表1)

年 度	高校 卒業生数	大学・短大等 進学者数	大学・短大等現役進学率(%)		
			計	男	女
平成7年	1,590,720	597,986	37.6	29.7	45.4
8年	1,554,549	605,619	39.0	31.8	46.0
9年	1,503,748	611,431	40.7	34.5	46.8
10年	1,441,061	611,841	42.5	37.2	47.6
11年	1,362,682	602,078	44.2	40.2	48.1
12年	1,328,940	599,779	45.1	42.6	47.6
13年	1,327,109	599,026	45.1	43.1	47.1
14年	1,315,079	589,826	44.8	42.8	46.9
15年	1,281,656	572,181	44.6	42.7	46.6
16年	1,235,482	560,055	45.3	43.6	47.1
17年	1,203,251	568,710	47.3	45.9	48.7
18年	1,172,090	578,556	49.4	48.1	50.6

(注)12年度以降の高卒者数には中等教育学校分を含む。進学者数には通信制を含む。

●大学・短大への入学状況の推移 (表2)

年 度	受験生数(人)		入学者数 (人)	不入学者数 (人)	現役志願率 (%)
		現役			
平成6年	1,165,339	885,366	805,710	369,696	53.4
7年	1,132,684	862,017	801,317	341,191	54.2
8年	1,096,198	845,060	800,023	305,762	54.4
9年	1,046,580	820,737	794,234	261,981	54.6
10年	992,722	792,567	782,173	221,116	55.0
11年	931,847	756,149	758,532	185,288	55.5
12年	889,194	738,443	741,146	162,589	55.6
13年	880,733	741,141	734,199	164,706	55.9
14年	876,568	737,991	730,778	167,375	56.1
15年	854,203	713,651	717,814	157,307	55.7
16年	827,246	687,187	704,535	143,083	55.6
17年	797,242	672,468	703,191	113,748	55.9
18年	779,029	672,063	693,791	102,550	57.3

(注)受験生数は大学(学部)と短大(本科)の合計。受験生数と不入学者数には高認等を含めない。
入学者数には、高認等を含む。

●現役進学率が全国平均を上回った都府県 (表3)

順位	都府県名	進学率(%)	前年度増減(ポイント)	順位	都府県名	進学率(%)	前年度増減(ポイント)
1	京都	61.3	2.9	12	石川	51.9	1.5
2	東京	59.0	2.8	13	岐阜	51.7	1.6
3	広島	56.8	1.7	14	富山	51.4	0.9
4	兵庫	56.0	1.1	15	岡山	50.8	1.0
5	奈良	56.0	1.9	16	静岡	50.6	1.4
6	愛知	55.7	1.6	17	愛媛	50.5	1.0
7	福井	54.5	2.2	18	埼玉	50.2	3.0
8	大阪	54.1	3.0	19	徳島	50.0	0.7
9	神奈川	54.0	2.2	20	栃木	49.9	2.6
10	滋賀	53.6	1.5	21	三重	49.7	0.6
11	山梨	53.2	0.5				

注) 現役進学率の全国平均は、49.3%(前年度比2.0ポイント上昇)。

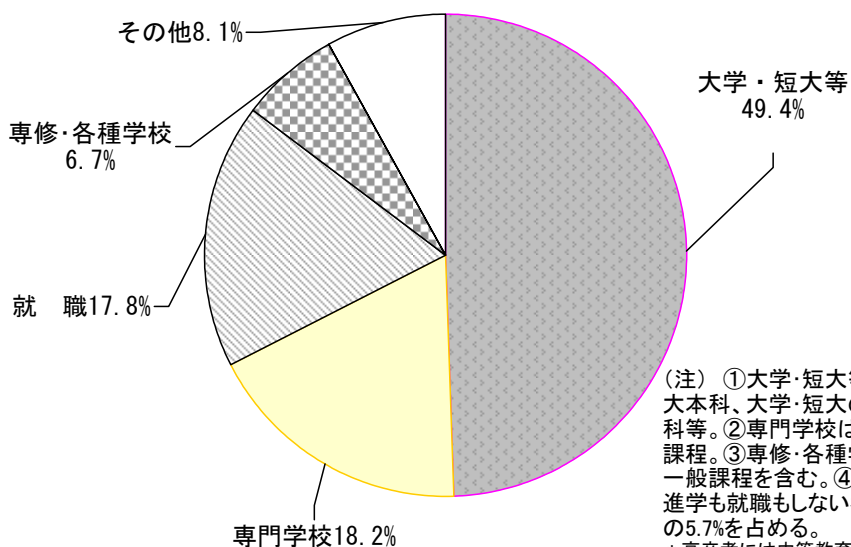
●大学・短大学生数(男女別) & 女子占有率の推移 (表4)

年 度	大学学生数(人)				短大学生数(人)			
	計	男	女	女子占有率(%)	計	男	女	女子占有率(%)
平成6年	2,481,805	1,706,156	775,649	31.3	520,638	42,829	477,809	91.8
7年	2,546,649	1,724,756	821,893	32.3	498,516	43,077	455,439	91.4
8年	2,596,667	1,732,520	864,147	33.3	473,279	43,989	429,290	90.7
9年	2,633,790	1,734,356	899,434	34.1	446,750	43,821	402,929	90.2
10年	2,668,086	1,737,215	930,871	34.9	416,825	41,453	375,372	90.1
11年	2,701,104	1,741,614	959,490	35.5	377,852	38,111	339,741	89.9
12年	2,740,023	1,747,711	992,312	36.2	327,680	33,990	293,690	89.6
13年	2,765,705	1,739,307	1,026,398	37.1	289,198	31,091	258,107	89.2
14年	2,786,032	1,726,088	1,059,944	38.0	267,086	30,057	237,029	88.7
15年	2,803,980	1,716,549	1,087,431	38.8	250,062	29,972	220,090	88.0
16年	2,809,295	1,708,456	1,100,839	39.2	233,754	29,291	204,463	87.5
17年	2,865,051	1,740,151	1,124,900	39.3	219,355	28,224	191,131	87.1
18年	2,859,207	1,731,737	1,127,470	39.4	202,197	25,091	177,106	87.6

(注) 大学学生数には大学院等を、短大学生数には別科・専攻科等をそれぞれ含む。

●18年度高卒者117.2万人の進路別割合

(図②)



(注) ①大学・短大等は大学学部、短大本科、大学・短大の通信教育部、別科等。②専門学校は専修学校の専門課程。③専修・各種学校は専修学校の一般課程を含む。④「その他」のうち、進学も就職もしない者は、卒業生全体の5.7%を占める。
*高卒者には中等教育学校分を含む。

●高卒者の進路別割合の推移

(図③)

